

表1-1. 対象者一覧(当事者に実施)

No.	性別	年齢	診断名	診断時期	その他の 並存障害	職業	現在の就労 支援	現在の福祉 サービス	同居家族
1	男	20代	ASD	10代	無	正職員	有	有	両親、兄弟
2	男	20代	ASD	10歳未満	有	無職	無	有	両親、兄弟
3	男	20代	ASD	10代	有	就労支援	有	有	不明
4	男	20代	ASD,ADHD	20代	無	正職員	無	無	一人暮らし
5	男	20代	ASD,ADHD	20代	有	無職	無	無	一人暮らし
6	男	20代	ASD,ADHD	10歳未満	有	就労支援	有	有	両親、兄弟
7	女	20代	ASD,ADHD	20代	無	無職,主婦	無	有	母、夫、子ども
8	男	30代	ASD	20代	有	無職	無	無	両親
9	男	30代	ASD	30代	不明	福祉サービス 利用	有	無	一人暮らし
10	男	40代	ASD	20代	有	無職	無	有	両親、兄弟
11	女	40代	ASD	30代	有	無職	無	有	一人暮らし
12	女	40代	ASD	30代	不明	就労支援	有	有	一人暮らし
13	男	50代	ASD	50代	有	正職員	無	無	一人暮らし
14	女	50代	ASD,ADHD	50代	有	自営業	無	有	子ども
15	男	60代	ASD	40代	無	正職員	無	有	一人暮らし
16	女	—	ADHD	不明	有	パート	無	無	一人暮らし

表1-2. 対象者一覧(保護者に実施)

No.	性別	年齢	診断名	診断時期	その他の 並存障害	職業	現在の就労 支援	現在の福祉 サービス	同居家族
17	男	20代	ASD	10歳未満	有	正職員(障害者)	有	無	母
18	男	20代	ASD	10代	有	無職	無	有	両親
19	男	20代	ASD	10歳未満	有	学生	無	不明	母、兄弟
20	男	20代	ASD	10歳未満	不明	正職員	無	無	母、兄弟
21	男	20代	ASD	10歳未満	不明	正職員	無	無	両親
22	男	30代	ASD	10歳未満	有	非常勤職員	無	有	一人暮らし
23	男	30代	ASD	30代	有	無職	無	無	両親
24	男	40代	ASD	10歳未満	不明	パート	有	有	一人暮らし

表1-3. 対象者一覧(災害体験あり)

	No.	面接	ケース概要
個別 面接	ケース1 (No.25,26,27)	当事者(保護者でもある)	東日本大震災後、子ども2人(いずれも現在小学生)が自閉症と診断され、その後、母自身もASDの診断を受けた。現在、福祉サービスを受け、避難生活を継続中
	ケース2 (No.28,29)	保護者	東日本大震災後、子ども2人(現在は幼稚園、小学生)が自閉症と診断され、現在も避難生活を継続中
	ケース3 (No.30)	保護者	東日本大震災を経験した。震災時からASDの診断を受けていた。現在も避難生活を継続中
グループ	31 32 33 34 35 36 37	保護者 保護者 保護者 保護者 保護者 保護者 保護者	熊本地震で避難生活を体験しており、いずれも青年・成人期のASDのある子どもの保護者である。避難生活は終了し、現在は自宅で暮らす。親の会等で顔見知りであり、一部の保護者は避難中も連絡を取り合い、情報交換等も行っていった。

表b 診断に至る経緯 n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 幼児期に診断	5
・ 職場でのトラブル	4
・ 親の気づき・勧め	4
・ 子どもの診断	4
・ 精神科受診 (合併症の症状)	3
・ 自身での気づき・インターネット	3
・ 育児	2
・ 兄弟(ASD診断あり)の受診	2

表c-1 現在の不安や困り感 n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 経済面	10
・ 老後(住居)	9
・ 併存症	6
・ 家族関係	5
・ 金銭管理	4
・ 問題なし	4
・ 対人関係	3
・ 住居	3
・ 車の運転	3
・ 性的欲求	2
・ 自己理解	2
・ 感覚面	2
・ 過去の失敗	2
・ 連絡方法	1
・ 余暇	1
・ 暴力	1
・ 服装・髪型	1
・ 生活環境	1
・ スケジュール	1
・ 事務処理	1
・ 支援に関する要望の出し方	1
・ 子供の将来	1
・ ケガなどの緊急時の対応	1
・ 片付け・所持品管理	1

表d-1 学生時代の不安や困り感 n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 困り感なし	9
・ 家族関係	5
・ 対人関係	5
・ いじめ	4
・ 不登校	4
・ 課題の提出	3
・ 感覚面	3
・ 会話・吃音・緘黙	2
・ 学習面	2
・ 片付け	2
・ 自己理解	2
・ 就職	2
・ 睡眠	2
・ スケジュール	2
・ 部活	2
・ 先生からの叱責	1
・ 一斉指示	1
・ 通学	1
・ 非行	1

表c-2 現在の支援(利用している、又は必要と思われる)
n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 自己解決	11
・ 福祉サービス(グループホーム・ヘルパー)	9
・ 医療	9
・ 就労支援	8
・ 障害手帳	8
・ 自己理解・特性の理解	4
・ 障害年金	4
・ 自立支援	4
・ 配偶者の理解	3
・ 話し相手	3
・ 職場	3
・ 家事支援	3
・ 感覚面	3
・ 必要なし	3
・ スケジュール・見通し	2
・ 金銭管理	2
・ 健康管理	2
・ 周囲の理解	2
・ 経済面	1
・ 行政	1
・ コミュニケーション支援	1
・ 支援者の理解	1
・ 時間	1
・ 事務手続き	1
・ 社会性	1
・ 住居	1
・ 書字	1
・ マッサージ	1
・ 性的欲求	1
・ スマートフォンの使い方	1
・ 他機関の連携	1
・ 地域の理解	1
・ 通勤	1
・ 当事者の会	1
・ 特性に合わせたカウンセリング	1
・ 服薬	1
・ マニュアル	1
・ 老後(住居)	1
・ 衛生面	1

表d-2 学生時代の支援(利用した、又は必要だと思われる) n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 療育	4
・ スクールカウンセラー	3
・ いじめ(事後対応)	2
・ 医療・診断	2
・ 担任の配慮(理解)	2
・ 母親がサポート	2
・ 福祉サービス	2
・ 個別指導計画	2
・ 支援なし	2
・ 通学	1
・ 特性の理解	1
・ 不登校児の居場所	1
・ 連携	1
・ 援助要請	1
・ 学校の理解	1
・ 経済的な問題	1
・ 時間	1
・ 就学猶予	1
・ 就労支援・役立たなかった	1

表e 健康面の問題 n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 身体症状	8
・ 病気	5
・ 服薬	4
・ 睡眠	4
・ 食事管理	3
・ 精神症状	2
・ 薬の副作用	2
・ 健康管理	2
・ ケガが多い	1
・ 更年期	1
・ 自傷	1
・ アレルギー	1
・ 医療従事者の理解	1
・ 感覚面	1

表f 女性特有の問題 n=5 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 子育て	4
・ 異性との接し方	3
・ 生理	2
・ 出産	2
・ 容姿・身だしなみ	2
・ 恋愛	2
・ 家事	1
・ 結婚生活	1
・ 性の問題	1
・ 服薬	1
・ ママ友	1

表g 職場での支援ニーズ n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 職場(人間関係)	10
・ 職場(特性の理解)	6
・ 職場(仕事内容)	4
・ 解雇される不安	2
・ 就労困難	2
・ 職場環境	1

表h-1 緊急事の経験の有無と内容 n=24 (重複回答あり)

回答内容	
・ 加害: いたずら電話。悪いことだと気が付かなかった。	
・ 加害: 家庭内暴力	
・ 加害: 事故: 運転して事故を起こし、パニックになった。事故対応は同乗していた知人がやってくれた。	
・ 被害: 詐欺: 付き合いのあった異性にお金を使い込まれた。	
・ 被害: 詐欺: キャッチセールス。女性に優しく話しかけられるので、応じてしまう。	
・ 被害: 詐欺: 携帯電話で架空請求。怖かった。対応方法がわからなかった。	
・ 被害: 詐欺: 携帯電話で架空請求され、お金を支払った後に家族が気が付いた。	
・ 被害: 空き巣: 鍵をかけ忘れて空き巣に入られ、通帳を盗まれた。	
・ その他: 警察に職務質問された。上手く答えられず、保護者が呼ばれた。	
・ その他: 警察に不審者と間違われ、補導された。保護者が自閉症と伝えたが、その後も職務質問を受けた。	
・ その他: 警察に不審者と間違われて補導され、保護者が引き取りに行った。	
・ その他: 警察に不審者と間違われ補導された。その後は身分証明書や電話番号を所持させている。	
・ その他: 電車の運転が停止。職場に遅れることを自分で連絡した。	
・ その他: マンションで警報が鳴った。慌てて外に出た。近隣の人に情報をもらった。	
・ 経験なし (4件)	

表h-2 緊急事の支援ニーズ n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 加害: 医療(主治医との連携)	5
・ 加害: 警察署における特性の理解と対応	5
・ 発達障害に理解のある弁護士への相談(研修プログラム・認定制度)	3
・ 家族、支援機関の連絡先を所持	1
・ 金銭管理	1
・ 周囲の障害理解	1
・ 第三者の見守り(加害)	1

表h-3 緊急事の不安 n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 犯罪を疑われた際の対応が出来ない	3
・ 本屋はかごがないので、万引きと間違えられないか不安	1
・ 緊急時の対応が難しい	1
・ 被害にあった時に相談できない	1

表i-1 災害体験(東日本大震災等) n=24 (重複回答あり)

回答内容
・ 落ち着いて対処できた。
・ 外出先だったので見知らぬ夫婦に助けもらった
・ 家族一緒だったので落ち着いて対処できた。
・ 学校で待機、母が迎えに来て帰宅。
・ 学校で待機、母が迎えに来て帰宅。泣いていた。
・ 強制的に支援に派遣された
・ 恐怖を感じた
・ 子どもがパニックになったことがきっかけで、自分もパニックになった。
・ 社内だったが冷静に対応できた。それ以外はいつもと変わらず過ごした。
・ 職場の上司に助けもらった。連絡せずに外泊したため家族に叱られパニックになった。
・ 信じられない光景を目の当たりにした
・ その日はすぐ逃げられるように洋服を着たまま寝た
・ 電車が止まっていたので歩いて帰ってきた。
・ 電車が止まっていたので歩いて帰宅し、落ち着いて対処できた。
・ 電車が止まっていたのでタクシーで帰宅した
・ トイレに逃げた(トイレは安全と以前に聞いたことがあった)。
・ 被害はなかった
・ 不安なので犬と一緒に過ごした
・ 予測できないことが不安だった

表i-2 災害時の支援ニーズ n=24 (重複回答あり)

カテゴリー(回答内容)	コード数(件数)
・ 避難所: 感覚面への配慮。音過敏への対応	4
・ 物資(取りに行くことが困難。配慮が欲しい。)	4
・ 支援者: 特性の理解	3
・ 避難所: 障害者だけで集まったテントキャンプ。	2
・ スケジュールの提示(物資等)	2
・ 薬	2
・ 支援者: 一時預かり等	1
・ 支援者: 訓練プログラム研修	1
・ 支援者: サポートブック	1
・ 支援者: 事前準備	1
・ 支援者: 相談先の紹介	1
・ 支援者: 避難所に発達障害担当の配置	1
・ 支援者: 放っておいて欲しい、多くを求めないで欲しい	1
・ 避難所: 周囲の理解(高機能のケース)	1
・ 避難所: 情報の視覚化、手順書	1
・ 情報: 医療面の情報と福祉の情報は欲しい	1
・ 情報: 情報は声かけでなく視覚化して提示してほしい。アナウンスは聞き取れない。	1
・ 防災・備品セットがあるとよい(そろえることが難しいので)	1
・ 自宅までの帰路と手順書をバッグに入れて持ち歩く	1
・ 避難マニュアルが欲しい	1
・ 福祉サービス	1
・ 強く求めない。みんないっぱいいっぱいだと思うから。	1

表i-3 避難生活についての意見 n=24 (重複回答あり)

回答内容
・ 避難所生活は難し。人刺激がきついと思う。
・ 避難所生活は難しいと思う。
・ 避難所は難しい。
・ 避難所は難しい。アパート、友人の家などで過ごしたい
・ 避難所は難しい。車の方がまだよい。
・ 避難所は難しい。車の方がまだよい。
・ 避難所は難しい。車の方が良い。独語が大きいため。
・ 避難所は難しい。個室が必要。人の歩く振動が嫌。
・ 避難所は難しい。テントなど、大きな声で話しても良い空間が必要。
・ 避難所は難しい。テントなどの方が良い。全壊していなければ自宅。
・ 避難所は難しい。テントの方が良い。
・ 避難所は難しい。トイレの汚れ、人刺激がいや。
・ 避難所は難しいが、慣れれば順応できるかも。発狂するまではいかないか。
・ 避難所は無理。とにかく個室がいい。キャンピングカーなどライフラインもしっかりと欲しい。
・ 福祉避難所が良い。謝ってばかりになる。家族で過ごしたい。
・ 清潔で静かな部屋、1人で過ごしたい。
・ 体育館より個室が良いが身体障害の方が優先となると思う
・ 人刺激が嫌。個室が必要。
・ 個室が必要。
・ 避難所でも可能。
・ 避難所は2, 3日なら可。しかし、謝ってばかりの生活になると思う。
・ 周囲と同じように避難したい。
・ 避難所しかないと言われたら、仕方ない
・ 車中泊は孤立感が辛いと思う。
・ 福祉避難所の活用は、家族と離れ離れになるのが辛い。

表j 緊急時に診断名を周囲に伝えるか n=24 (重複回答あり)

回答内容
・ 障害: あえては伝えない。近くにいる親身な方にのみ伝える。
・ 障害: 緊急時には伝える。
・ 障害: 周囲に伝えようと思う。
・ 障害: 周囲の人には伝える
・ 障害: 伝えた方が良いと思う。パニックになるため
・ 障害: 視覚的に示すなら伝えようと思う。
・ 障害: 周囲に伝えたいと思うが、タイミングがわからないため、結局はかなり困ったときに伝える
・ 障害: 周囲に伝えた方が良いと思う。パニックになっていると思うので。
・ 障害: 周囲には伝えないが、周囲から変だと言われた時には伝える。
・ 障害: はじめは周囲には伝えず、避難生活などが長期化してきたら伝える。
・ 障害: すぐには伝えない。よほど困ったときには伝える。
・ 障害: 必要があれば伝えようと思うが、相手による。
・ 障害: 専門家が見てわかってくれたり、こちらに確認してほしい。
・ 障害: 使いたい人だけが使う。
・ 障害: 伝えたくない。
・ 障害: 伝えない。困っていることだけ伝える。
・ 障害: 伝えない。よほど困った時のみ伝える。
・ 障害: 伝える必要はないと思う。保護者の立場では、子どものことは伝えたい。助かる。
・ 障害: 伝えなくても問題ない。
・ 障害: 保護者の立場では、子どもの障害のことを伝えたい。
・ 障害: 伝えたくない(2件)

表k 発達障害のマークに関する意見 n=24 (重複回答あり)

意見	件数	回答内容
マークを使ってみたい	9	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークがあればよい。障害手帳では重すぎる。 ・ マークがあればよいと思う。使ってみたいと思う。 ・ マークがあればよいと思う。 ・ マークがあればよいと思う。幼い時からサポートを受けたいが、上手く伝えられなかった。 ・ マークがあればよいと思う。使ってみたい。 ・ マークがあればよいと思う。使ってみたい。 ・ マークがあればよいと思う。使ってみたい。言葉で相手に伝えるのはタイミングが難しい。 ・ マークは欲しい。言葉で伝えると謙虚な印象にならないため ・ ハンディカードのようなものが欲しい。 ・ マークを付けたい。
条件が合えば使う	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークがあればよいと思う。使ってみたいと思う。しかし、逆にトラブルに巻き込まれる心配もある。 ・ マークは合った方がよいとは思いますが、自分が使うかはわからない ・ マークは困ったときに使うのみで、普段は使いたいと思わない。周囲から変な目で見られる。 ・ マークは障害の適切な理解がなされた上で使用したい ・ マークは使いたい人が使えばよいと思う。また、マークで重症度もわかると良いと思う
マークは使わない	5	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークがあっても使わない。使う必要がない。 ・ マークには抵抗がある。しかし、トラブルに巻き込まれた時には必要と思う。 ・ マークは嫌がると思う。必要性を感じない。ナチュラルサポートが良い。 ・ マークは使いたくない ・ マークは抵抗がある
啓発活動が重要	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ マークの啓発と周知徹底、芸能人の活用 ・ マークの啓発にインターネットの動画サイトなどを活用 ・ マークは十分に啓発、周知されないいと意味がない。悪用される可能性もある。 ・ まずは発達障害の啓発が先。

資料2：ケース1（当事者であり、保護者）

<避難生活1>

町が指定した避難所には行っていたが、学校だったので校舎には入らず車で生活をしていた。"最初のうちは(避難所で)子供たちの障害っていうのを公表できなかったもので、場所を一室確保するのに結構苦労した。結局確保できず避難所内(校舎)の相部屋で生活し、二日目ぐらいから家族で別の公民館に避難した。そこでは障害に関する理解が少しはあったのか、個室を借りることができた。

福祉の避難所が欲しかった。老人や身体の障害の方々と一緒になって発達障害の人が来づらいついていうのも聞きますが、でも一般のよりは行きやすい。周りからの「うるさいから静かにさせる」みたい非難の目が少しはないかなと思う。

(避難所生活は)子供を騒がせないように注意ばかりし、とても気を遣った。子どもは落ち着きなかった。

(車内生活は)家族だけなので、普通の避難所よりはそんなに注意を受けなかったことや外出が自由にできたことが良かった。

(福祉避難所にトレーラーハウスを使うっていう案は?) いいと思う。

<避難生活2>

避難先では、無我夢中でがんばってこれたが、自分の地元の近くに避難先を変更してから安心感もあり、何もする気にもなれず、喜怒哀楽がやや激しくなった。子供が通う病院(発達障害)で自分自身も診察してもらい、ASDの診断に至った。福祉サービスの利用も含めて診断を希望した。(引きこもっていた時は)もう家事は一切やりたくない、できない感じがあった。外食が多かった。これじゃいけないっていうのはわかるが、行動ができない。その当時はかなり太ってましたから、食事は摂っていた。夜は寝れないため睡眠薬を飲んでたと思う。今も飲んでいる。(抗鬱剤も)服薬中。(併存症は「うつ状態」)ひきこもりにはなっていた。近くに私のきょうだいがいたので、結構世話をしてくれたが、それをうっとうしく思うぐらい落ち込んでいた。何やられてもうざいみたいなの、うざいついていうより関わらないでという感じだった。

<これまででの困り感>学生時代は、困ってたというか、人より勉強できないなとは思っていたが、周囲の理解があり、それほど困り感はなかった。避難直後は子どもの服薬のための病院探しが大変だった。市に問い合わせたが、専門医が不足しており、自分で探して処方してくれる病院を見つけ、現在も通院している。自分にできることは自分で頑張る。薬について、お薬手帳を持ってないため、その説明が難しかった。

<自分の支援>

音への過敏さがあり、それに対するスキルを身に付けていきたい。また、周囲にも理解してほしい。また、自分の子供の教育のことか一番心配。

<子どもの支援>

療育ができる場所があったのが、一番で、子供たちにも良かった。自分もわからないことがあったら相談できる避難場所がほしい。子供が発達障害なので、迷惑になるので、集団の中には入れず、そういう苦労があった。移動支援も必要。その子に応じた臨機応変な対応をしてくれたら助かる。

療育機関への手続きは市役所かどっかに電話して自力で調べてやりましたね、無我夢中で。

<福祉サービスの利用>

精神障害者保健福祉手帳を取得し、障がい者福祉サービ(家事代行)を使っている。気分の浮き沈みが激しい時期にはカウンセリングをしばらく受けていた。子どもは、放課後等デイサービスを利用しており、子育てへの支援が自分にとっては非常に支えになっている。自分のことは何とかなるが、子どものことは何とかならないので。

<健康面>以前は疲れが酷かった。

<診断について>

その当時は、発達障害と判った時で、家族は受け止められず、公には出来なかった。今はそれなりに理解もしてくれているので、状況に応じて周囲に伝えることがある。ここで絶対伝えておかなければ、後でこの子達が困るっていう時は伝えるが、わざわざ伝えなくてもいいんじゃないかと思う。

ケース2（保護者）

<診断>

きょうだい2人とも避難中に県外からの支援の専門医に診断を受けた。上の子は、1歳9か月の時であった。

<被災体験：発災時>

- ・発災直後、電気もつかない、水も出ないところで1日くらい過ごした。
- ・避難所(体育館)に行ったが、広く初めての場所で興奮して走り回り、他の人もピリピリしていつらくて、いわきの避難所を3、4回移動した。
- ・避難所では兄はかんしゃく、壁に頭打ち付けて、車中泊を余儀なくされた。
- ・老人は個室を準備されたりして手厚くされていたが(子どもにはなかった)。見た目がわからない障害で診断もついていず。視線がつかかった。支援はなにもなかった。居づらかった。
- ・水道、ガスの復旧が遅かった
- ・一ヶ月以上避難所、昼間はブラブラして、ガソリンスタンドを探して、夜は車の暮らし、風呂も入れずの状態が続いた。

<避難生活>

診断を受けたころは、アパートで広くなく下から苦情がきた。大家さんが良い人で下の人に話してくれて軽減した。また、外出したときに予想外の突拍子もないことをするので大変だった。自宅以外だと他の子の玩具をとったり、靴のままキッズルームに入ったりと気が抜けなかった。兄も妹も多動で自宅からいなくなったりする。妹は睡眠障害がある。"個室が必要だった。

子どもが遊べる場所、人がうじゃうじゃいたので、余計興奮して、気を紛らわすものがなかった。携帯のユーチューブを見せたが充電制限があった。コンセンートの配慮があれば良かった。外に出れなかったので、子どもの遊べるスペースがあればよかった。物資でも玩具はなかった。衣類や食料品のみで、子ども関係のものはなかった。本もゲームもない。仮設では苦情がきて、夜も眠れないと云われていつらくなった。

保育所で子どもについて理解が難しい部分があると(出来ないことについて)指摘されることもあり、一般の保育園の発達障害に対する知識がないと感じた。保育園ではみきれません、療育施設にいつくささいとも言われた。絵カードなどの支援ツールもあったが、やり方がわからないと言われた。

その他にも、親の介護と子どもたちの世話で大変だった

<支援について>

療育機関(避難者向け)に3歳から通い、助けになった。母と分離もでき、自分の知らない対応を学ぶことができ

た。本だけではわからないことがわかるようになった。今まで相談するところがなかった。3歳前に診断（県外の医師）してもらえたのが良かった。県内の医療や支援体制もよくなってほしい。本人の行動は、したくてやっているわけではないこと、こちらが伝えたことを素直に理解して欲しい。小さい頃はまわりも障害とわかってくれなくて悩んだ。理解されにくいので、メディアでも発達障害のことを発信して欲しい。周りの目が気になるので、常に謝っている状態だった。嫉が出来ていないのではなく、障害だと伝えて欲しい。カードがあったら使う。フライボード（ネット）で名札を買って使っている。それを見せても、障害を理解しようとしてくれない。「この子はわかるから」と云われてしまう。名札を背中につけているが見る人はいない。祖父母、母の姉夫婦、姪や甥や人の目があることが良かった。助かった。自分一人だと大変である。

ケース3（保護者）

<被災体験：発災時>

実家で一緒にいて、地震で携帯が鳴った時に連れ出した。役場の隣の体育館（避難所）に避難した。でも避難所といってもやっぱり8か月の子をそこに置くというのは、まず寒いから風邪をひいちゃいけないってそういうことを思って、駐車場の車の中に居た。泣いたりすると、他の人に迷惑をかけたら困るし、一応車の中で一晚過ごした。朝になって防災の放送でこの町から避難しますっていうことで、バスに乗ってそのまま別の避難所へ移動した。"実家から迎えの車がきてたのと、ほかの兄弟は車で移動したこともあり、結局皆でさらに別の避難場所（原発から遠く）へ避難した。しかし、大所帯となってしまい、さらに他県の親戚に避難した。そこも1か月はいたが、気持ちが苦しくなり、こんなに居ちゃ悪いなと思って、雇用促進住宅を探し、移動した。" 赤ちゃんを連れて体育館とかには居ずらかったが、“赤ちゃん居る方はこの部屋にいていいですよ”、みたいのもやっけてくれたので、ああいうスペースあってよかった。

<診断について>

避難中に診断された。3歳児健診で言葉があまり出ていないことがきっかけであった。被災地支援の専門医を受診した。行政機能していないため、避難先で支援を受けた。

<避難生活>

避難先では、「お父さんどこで働いてんの？」と言われないように話をそらしている。避難していることも幼稚園では周囲に話していない。昔から居ますよみたいな顔をして、地元の話をしてもらってもちんぷんかんぷんだけども「そうだね」って話を合わせる。現在も（避難中は）ずっとストレス。

幼稚園選りから小学校も地元か避難先か6年間悩み続けている。

避難先では、一般の住宅を自分で探した。「いわき市に仮設住宅を作りますか」って訊いたりしても「今予定はないです」って言われたんで、予定ないものを待てるよりは自分で動くしかないなって思った。

療育は、非常に役立った。また、入園後は、子どもと離れる時間が出来て気分的にすっとした。

<障害の周知>

こちらから障がいがあるんですっていうのは言いづらい。気遣うかなっていうのもあるし、うちの場合は全然わかんないっていうか、人に迷惑かけるようなそういうのがないから、まず伝えなくてもいいっていうのがある。特別何かしてくださいっていう要求はない。

保護者のグループ面接

<被災体験>

- その日は車中泊。次の日は自宅で寝た。17歳の息子の安心グッズ（i-Pad、ラジオ等の機器）があるが、本人は、情報を流して役割感を持っていた。
- 駐車場がシャッターが電動のため、開けられず、車中泊できなかった。
- 電気が通ったら車でコンビニや県庁へ移動しながら生活。最終的には夫の実家へ避難した。
- 避難所では、パーテーションで区切ることが大切と言う母がいて、段ボールで区切り、カムダウンする場所も確保し、トイレに近い場所を確保した。周りにも子どもの状態を伝えた。1ヶ月過ごした。安心グッズ（好きなもの、普段から使っているもの、自分の所はパソコンやテレビ・Wi-Fi・充電器等だったが）
- 本人は地震がとても気になっていて、震度計をパソコンに入れており、調べていた
- 子どもと3人で車中泊をしていた。1週間くらい。その後、避難所で過ごした。避難所はぎりぎりまで入らなかった。無理だと思ったから。管理人さんには障害のことを伝えていた。中学校の避難所を教えてくれた人もその人たち。また、避難所では周りの避難者が長男のこだわりに合わせてと言ってくれ、（電機は真っ暗にする）に合わせてくれた。近所人の支援がよかった。
- 子どもの通院を1週間後に控えて発災した。薬はなくなってくる時期である。近所の調剤薬局で薬を取ったことがあり、履歴でなんとかなった。
- きょうだい児に体調不良、夜尿、頻尿がでた。
- 体育館の隅に仕切りを作って入った。その後、相談支援事業所から連絡があり、福祉避難所へ移動した。
- 事前にアンケートが来ていた。一緒に避難所に行ってほしいに○をつけていた。しかし、民生委員、自治会長にも書類が言っていたはずだが、何もなかった。相談支援員からしばらく経って連絡が来るまで対応なし。
- 小学校へ避難しようと思ったが、上の子がトラウマで行けない状況があった。近所で物資の配布をしていたが、障害者を嫌いな人だったため、1人分少く渡された。自分の家の前で車中泊となった。それがベスト。
- 公民館は、犬がいて、入れない（上の子が苦手）。犬がいなくなってやっと行けた。避難所で宴会が始まっていて、うるさくて入れなかった。
- 近隣の体育館へ行き、たくさん来ると思い舞台裏へ入った。徐々に人が増えパニックになった。その後車中泊。電気ガス水道が止まっていた。子どもは車内で待たせ、ガスコンロと鍋、ウーロン茶、水物を（自宅から）出してきて、ガスコンロでコメを炊き、車中泊5日間。
- 水は3週間くらい出なかった。昼間は車庫で生活。夜は車中泊。息子はぜんそくで薬を飲むための水がないと生きていけないと言っていた。
- はじめは、混乱しないようにいつもと同じ行動を心かける。次に、身体症状の対応に心がける。体力が落ちていること

に気が付いた。

- ・20日経って、ストレス解消が必要と感じはじめ、2か月後、ストレス解消の限界を感じる。目標をつくった。1つは風邪をひかない。もうひとつは仕事に行って弁当食べる。大変なことをすることによって気を紛らす。

<避難所について>

- ・トレーラーハウスなどがあったら使いたい。
- ・同じ年齢の子ども（赤ちゃん）をもつ親と一緒に過ごす空間だったら分かり合えるのでよい。
- ・避難所でも同じ境遇の人だったら、大勢いても「しょうがないよね〜」っていう気持ち（になる）

<福祉避難所>

- ・呼吸器など、気になるものがあると、うちの子は、「何でこれつけてるの」「なんでこうしてるの」って聞いて回ると思う。
- ・新しい場面だとやっぱり興味があるから。そういう状況は気を遣う。
- ・避難所に保健師さんがいるとは限らない。いない場合はやっぱり、私たち頼るのは役場の人が一番身近。警察よりも役場の人がいい。
- ・警察の方には、少しでも知識持っててもらえるといいかなと。警察の人にすいませんなんて言いづらい。
- ・役場の職員さんも発達障害の知識を知っていると安心。"
- ・言葉よりも絵（視覚情報）で示してもらった方がわかる。そういうものを役場に備えておいたほうがいい

"